



⑰諸国名家短冊集（一部）

近世後期カ

夜半翁蕪村（与謝蕪村）・素園尼千代尼（加賀千代女）・松露庵烏明・春秋庵白雄（加舎白雄）・寒葉齋涼岱（建部綾足）・雪中庵蓼太（大島蓼太）・羽鳥一紅・生方雨什・松井素輪など、上州内外の俳人の短冊が貼られています。本史料が伝来した松井家は、前橋町年寄・前橋町本陣を務めていました。その出身の松井素輪（儀兵衛、1732～1792年）は当時“三日月素輪”として知られた俳人で、多くの門弟を擁していました。素輪の前半生は、松平家の前橋時代に当たり、当時の文芸の繁栄を偲ぶことができます。

松井家旧蔵文書 P01013 No. 416

【史料⑰】 諸国名家短冊集

（前略）

京都俳宗 洛東岡崎住 五升菴（庵）

菴のはな 嵯峨や醍醐は道遠し 蝶夢

京都東山 芭蕉堂半化坊

素輪（カ）ぬしを訪らひ 侍るに由の神の

とわのにやありけん こほらぬもあハれや 川の融（カ）のこれ 蘭更

あへるなりとぬりこめ そて（袖）かさ（飾）りける者（カ）

京都俳家 号夜半翁

みしか夜や 薄生添ふ垣のひま 蕪村

（中略）

高崎 羽鳥氏後室

うゑてまでハけに

なか月やけふの菊 一紅

同処 生方惣兵衛

絶絶の橋の としふれと 雨什
一景を 絶ぬをたへや橋の霜

乞れて

月今宵 大事に雲をはなれけり 素輪

松井氏蔵

松井氏蔵